

平成 27年 11月 14 日

## サイエンス・ダイアログ 実施報告書

1. 学校名・担当者氏名: 香川県立高松桜井高等学校 八田 由美
2. 講師氏名: Dr. Mengnjo Jude Wirmvem
3. 同行者氏名: \_\_\_\_\_
4. 実施日時: 平成 27年 11月 13日 (金) 16:00 ~ 17:30
5. 参加生徒: 1年生 0人、 2年生 5人、 3年生 6人 (合計 11人)  
備考: (普通科の生徒 完全に聴講希望者による自由参加)
6. 講演題目: (英文)  
Hydrogeochemistry and Isotope Hydrology: Significance to human livelihood  
(和文) 水文地球科学と同位体水文学 :人々の暮らしへの重要性
7. 講演概要: 出身国カメルーン)の紹介(地理、歴史、言語、文化、生活および天然資源について)  
科学者を目指したきっかけ  
研究について(基礎編)……水文地球科学および同位体水文学 とは?  
研究について(他との関連編)…環境、人々の生活、経済成長との関係は?  
研究について(研究のやり方) …フィールドワーク→分析→論文発表→論文投稿  
質疑応答
8. 使用言語: 英語
9. 講演形式:
  - (1)講演時間 75 分 質疑応答時間 15分
  - (2)講演方法 (例:プロジェクター使用による講演、実験・実習の有無など)  
プロジェクター使用による講演、黒板を使った解説
  - (3)通訳 (例:同行者によるサポート、外国人研究者本人による日本語説明)  
なし
  - (4)事前学習時使用教材(事前学習を行った場合のみ)  
担当教員による単語や内容の説明プリント(作成したが、未使用、当日配布)

10. 学校からの支給経費(該当がある場合): 交通費 宿泊費 謝金

11. その他特筆すべき事項:

ほとんどの生徒にとって同位体地球化学は履修していない内容で、環境による同位体の分離について理解するのは難しかったようだった。事前にそれについて勉強会を開くつもりだったが、生徒は参加しなかった。もっと効果的な宣伝をするべきだったと思う。でも、それに強い興味を示して聞き入っていた生徒もあり、よい刺激になったと思う。講師には平易に丁寧に説明していただけるように依頼していたが、内容自体が難しかったため説明も難しかったと思う。そのなかでも画像なども利用してたとえも多く入れて説明していただき、生徒にも熱意はよく伝わっていた。